

技術名称	Waveパネル	事後評価未実施技術	登録No.	KT-110009-A		
事前審査	事後評価		技術の位置付け(有用な新技術)			
	試行実証評価	活用効果評価	推奨技術	準推奨技術	評価促進技術	活用促進技術
			旧実施要領における技術の位置付け			
			活用促進技術(旧)	設計比較対象技術	少実績優良技術	
活用効果調査入力様式			適用期間等			
-A 活用効果調査入力システムを使用してください。		-				

上記※印の情報と以下の情報は申請者の申請に基づき掲載しております。申請情報の最終更新年月日:2016.02.03

概要 従来技術との比較 特許・審査証明 単価・施工方法 問合せ先・その他 詳細説明資料

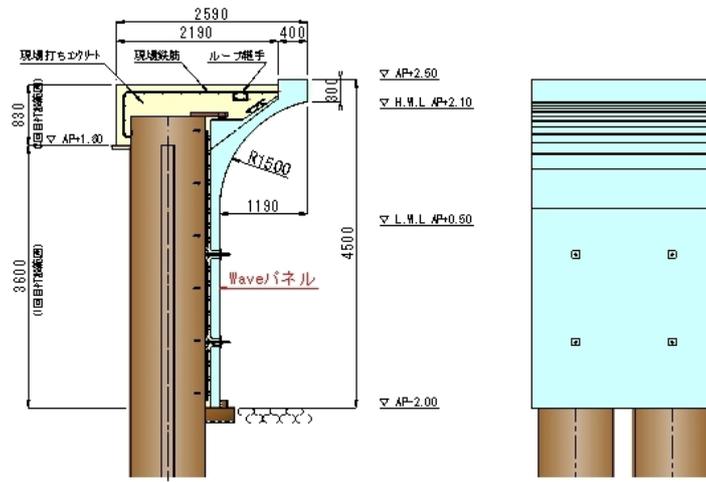
副題	片持ちスラブの梁付プレキャストパネルで、テラスの張り出しによる拡幅と鋼構造物の被覆防食を兼ねる製品	区分	製品
分類1	コンクリート工 - コンクリート工 - 型枠工 - 埋設型枠工		
分類2	コンクリート工 - コンクリート工 - 型枠工 - 特殊型枠工		
分類3	共通工 - 擁壁工 - コンクリート擁壁工		
分類4	共通工 - 擁壁工 - プレキャスト擁壁工		

概要

- ①何について何をする技術なのか?  
護岸テラスの張り出しによる拡幅と鋼構造物の被覆防食を行う技術
- ②従来はどのような技術で対応していたのか?  
鋼製型枠+コンクリート現場打ち
- ③公共工事のどこに適用できるのか?  
笠コンクリート工事  
護岸テラスの拡幅工事  
擁壁工事
- ④その他  
河川断面積の減少を最小限に抑え、テラス幅をより大きく確保できる。  
プレキャストパネルの延長幅は、現場条件によって、変更することが可能である。(下記の表は、標準タイプとする)  
被覆防食とは、鋼構造物の腐食をコンクリート等で表面をおおいかぶせて、腐食を防ぐことである。

Waveパネルタイプ表

タイプ	パネル標準延長幅(mm)	パネル標準長さ(mm)	パネル標準厚さ(mm)	重量(t)	鋼管矢板の種類	対応可能な曲線範囲
Aタイプ	2,357	4,500	120	4.80	φ1,000 PT型	-
Bタイプ	2,493	4,500	120	5.06	φ1,000 PP型	-
曲線タイプ	1,700以上	4,500	120	3.54以上	-	R30以上
Cタイプ	1,700~2,500	5,600	120	3.1~4.5	φ900 PP型	R30以上
Dタイプ	1,700~2,500	6,700	120	4.0~5.7	φ1,000 PP型、φ1,000 PT型	R30以上



テラス型護岸(施工図)と完成写真

### 新規性及び期待される効果

①どこに新規性があるのか?(従来技術と比較して何を改善したのか?)

- ・支保工を必要とする鋼製型枠を片持ちスラブの梁付プレキャストパネルに変えた。
- ・コンクリート現場打ちをプレキャスト工場製作に変えた。
- ・セパレーターを取付ボルトに変えた。

②期待される効果は?(新技术活用のメリットは?)

- ・片持ちスラブの梁付プレキャストパネルに変えたことにより、スラブ下の支保工が不要となり省力化となるので、施工性の向上が図れる。
- ・片持ちスラブの梁付プレキャストパネルに変えたことにより、型枠・支保工の脱型・養生がなくなり工期が短縮するので経済性の向上が図れる。
- ・プレキャスト工場製作に変えたことにより、緻密で、高強度のパネルであるので品質の向上が図れる。
- ・取付ボルトに変えたことにより、固定する箇所が減少し(1/3程度)、施工性の向上が図れる。

③その他

- ・パネル頭部に内蔵した鉄筋と現場で取付けを行う鉄筋を確実な継手にするためループ継手を採用した。
- ・パネル背面を梁付タイプにすることによりパネル重量の軽量化をした。

### 適用条件

①自然条件

- ・特になし

②現場条件

- ・水上作業の場合はクレーン付台船の配備可能な場所が必要とする。(作業幅:25.0m×長さ:70.0m程度)
- ・陸上作業の場合は背後地にラフトレーンクレーンの配備可能な場所が必要とする。(作業幅:10.0m×長さ:20.0m程度)

③技術提供可能地域

- ・技術提供地域については制限無し

④関係法令等

- ・河川法 河川関係基本法令集」平成20年7月発行 河川法研究会
- ・海岸法 港湾六法 平成22年版」平成22年3月発行 海事法令研究会

## 適用範囲

### ①適用可能な範囲

新設、既設のφ800以上の鋼管矢板、Ⅲ型クラスの控え鋼矢板式に使用する  
護岸法線がR30m以上の曲線で対応が可能。

- ・プレキャストパネルの製作可能な延長幅は1.7mから2.5mまで。
- ・プレキャストパネルの製作可能な張り出し寸法は1.5m以内とする。

### ②特に効果の高い適用範囲

護岸法線が曲線での施工となる箇所。

### ③適用できない範囲

- ・φ800以上の鋼管矢板、Ⅲ型クラスの控え鋼矢板式のない箇所。
- 護岸法線がR30m未満となる箇所
- ・プレキャストパネルの延長幅が1.7m未満と2.5mを超えるパネル。
- ・プレキャストパネルの張り出し寸法が1.5mを超えるパネル。

### ④適用にあたり 関係する基準およびその引用元

- ・コンクリート標準示方書 設計編」(平成20年3月発行 土木学会)P113
- ・コンクリート標準示方書 施工編」(平成20年3月発行 土木学会)P127、P146
- ・トラス鉄筋付プレキャスト版を用いた鉄道ラーメン高架橋スラブの設計・施工指針(平成15年12月発行 財団法人 鉄道総合技術研究所) P19～P25、P51～P57

## 留意事項

### ①設計時

設計時は、弊社に問い合わせを行う。

### ②施工時

施工時は、Waveパネル取り扱い要領書に従い、施工を行う。

### ③維持管理等

特になし

### ④その他

特になし